

# 平成30年度 県南教育事務所重点施策に関する 調査結果について

## 学校教育課通信

平成31年 3月18日(月) 第148号  
編集・発行：県南教育事務所 阿部 央

平成30年度末の調査結果から、今年度の県南域内の小・中学校の取組について振り返り、成果と課題を各項目の下端に記載しました。自校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。

調査への御協力ありがとうございました。(○:成果 ▲:課題)

\* 3:あてはまる 2:ほぼあてはまる 1:あまりあてはまらない 0:全くあてはまらない (網かけは平均値2以下の項目)

1 道徳教育の充実と教育相談体制の整備			評価平均	
			小学校	中学校
(1) 道徳教育の充実	①	「考え、議論する道徳」をめざし、多様な指導方法、指導体制の工夫改善をしている。	2.32	2.17
	②	授業参観等で道徳の授業公開を積極的に実施している。	2.84	2.39
(2) 教育相談体制の整備	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関との連携を密にした教育相談体制が整っている。	2.86	2.83
	④	前年度の同じ時期と比較し、いじめや不登校が減少している。 *前年度、いじめや不登校が0の場合は、「3」と回答	2.38	2.17
○ 道徳教育の充実については、小学校では、今年度完全実施となり、多様な指導方法について研修を実施している学校が増加した。				
▲ 保護者や地域の方が道徳の授業を参観し、意見交換する機会を積極的に設け、子どもたちの道徳性を学校・家庭・地域で連携して養っていくという意識を高めていきたい。				
▲ 「考え、議論する道徳」の指導については、教師の指導力向上を図る研修の充実が必要である。				
▲ SSWについては、学校のニーズに応えることができるように、学校との連絡調整を適切に行うことが必要である。				
▲ 不登校については、各学校のケース会議が情報交換で終わることなく、具体策まで共有・実践できるように不登校対応資料vol.5「豊かな学校生活のために」の中の、特に、「理解シート」と「援助チームシート」の活用を研修、訪問で継続して周知していく。				

2 健康課題解決に向けた基盤づくり			評価平均	
			小学校	中学校
(1) 体力の向上に関する取組の充実	①	「体力向上推進計画書」について、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	2.57	2.22
(2) 食育の推進	②	ふくしまっ子ごはんコンテストに参加した児童生徒数 ※9月のみ回答	1008人	1366人
	③	食育の授業を実施した学級の割合(該当学級数 / 全学級数)	89%	77%
(3) 健康教育の推進	④	健康教育推進のため、自分手帳、健康手帳等を活用している。	2.14	2.50
	⑤	肥満度50%以上の児童生徒数___名 *直近の調査	92人	58人
	⑥	肥満度50%以上の児童生徒のうち、肥満の改善を目指した個別指導を行っている児童生徒数 ※肥満度50%以上の児童生徒がいる学校のみ回答	57人	35人
	⑦	全歯(乳歯+永久歯)う歯処置完了数___名/う歯有病者数___名【小学校】 永久歯う歯処置完了者数___名/う歯有病者数___名【中学校】	76%	69%
○ 体力の向上に関する取組では、「体力向上推進計画」について共通理解を図り、組織的に取り組む学校の割合が、小・中学校ともに増加した。				
○ 各学校において、「食に関する指導の全体計画」と「給食指導計画」を作成し、学校給食の充実が図られ、栄養教諭等と連携した食育の実践が行われている。また、生活習慣や食習慣の改善が必要な児童生徒については、「食習慣、肥満等の健康教育に係る専門家派遣事業」等を活用した個別的な指導が行われている。				
▲ 朝食摂取率は97%を維持できている。「朝食について見直そう週間運動」や自分手帳等を活用し、朝食摂取率の維持に加え、栄養のバランスが取れた朝食の改善を継続して指導していく必要がある。				

3 学級・授業づくり支援と検証改善サイクルの確立			評価平均		
			小学校	中学校	
(1)	継続的な検証改善サイクルの確立	①	学力向上グランドデザインに基づく取組を見直し、マネジメントワークシートを活用して見直し、改善を行っている。	2.43	2.28
(2)	「確かな学力」の向上を図る授業づくり	②	板書計画を生かした授業づくりを行っている。	2.41	2.17
		③	学力調査の結果をもとに自校の課題を明確にし、指導の工夫改善に取り組んでいる。	2.54	2.50
		④	ふくしまの授業スタンダードを活用し、授業改善に生かしている。	2.62	2.50
		⑤	自校の研究テーマについて共通実践を行い、校内研修を活性化している。	2.84	2.83
(3)	「確かな学力」の向上を支える基盤づくり	⑥	家庭学習スタンダードを活用した家庭学習の充実や読書の習慣化に向けて、積極的な取組を行っている。	2.54	2.22
<p>○ すべての学校で「学力向上マネジメントワークシート」が作成され、PDCAサイクルに沿った定期的な学力向上、指導技術向上に向けた取組が行われている。週案へ繋がるなど、日々の実践につながる工夫をしている学校も見られた。</p> <p>○ 授業スタンダードの活用について、昨年度よりも評価が向上した。各校で重点化が進められ、学級の基盤づくりや学習指導法の改善を大切に授業づくりが行われている。</p> <p>▲ 家庭学習スタンダードの活用については、PTA総会や学級懇談会などで保護者への説明資料として活用されている。今後、各校で作成している「家庭学習の手引き」等と関連させて具体的な実践を進めていくことが求められる。</p>					

4 特別支援教育の充実と切れ目のない支援体制の整備			評価平均		
			小学校	中学校	
(1)	地域における切れ目のない支援体制の整備と理解啓発の促進	①	「個別の教育支援計画」を作成し、情報の共有や進級・進学時の引継等に活用されている。 *作成する対象は、配慮や支援を必要とする児童生徒全てです。	2.78	2.39
		②	障がいのある児童生徒一人一人の実態に応じた交流及び共同学習を実施している。 *特別支援学級のある学校のみ回答	2.97	2.73
(2)	幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実	③	配慮や支援を必要とする児童生徒の支援策の検討と共有化を図り、役割を明確にして支援を行っている。	2.76	2.50
		④	学校訪問や特別支援学校のセンター的機能等を活用して、特別支援教育に関する校内研修を行っている。	2.32	2.17
<p>○ 特別な支援が必要な幼児児童生徒についての把握、支援策の検討と支援の実施について、組織的に対応する学校が増えてきている。</p> <p>▲ 個別の教育支援計画の活用について、支援策の共有化、進級・進学時の引継ぎがされていない学校もあるため、引続き取組を促していきたい。また、通常学級に在籍する障がいのある児童生徒について作成を促していきたい。</p> <p>▲ 校内研修を行っている学校の割合が、小・中学校ともに昨年度より減少している。通常学級に在籍する障がいのある児童生徒数や特別支援学級の設置校が増加していることから、学校全体で特別支援教育に関する校内研修や特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり等において、活用できる情報を提供・周知し、活用を促していきたい。</p>					

5 学校教育を支える基盤			評価平均		
			小学校	中学校	
(1)	教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	①	教職員人事評価について、全教職員が理解し、運用している。	2.84	2.83
		②	衛生推進者を選任し、校内の安全衛生に関する職場環境の改善に努めている。	2.54	2.22
(2)	学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③	校内服務倫理委員会に、学校評議員や地域住民・保護者等に参加いただき、効果的な取組を進めている。	1.86	1.61
		④	信頼される学校づくりを職場の力で【平成30年改訂版】を活用している。	2.86	2.78
(3)	開かれた学校づくりと関係機関との連携強化	⑤	保護者は、学校や学級の経営方針について理解している。	2.70	2.72
		⑥	学校評価の「学校関係者評価」について公表している。	2.65	2.67
		⑦	地教委や関係機関との連携に努めている。	2.97	3.00
<p>○ 多くの学校で校長が先頭に立って、経営方針を保護者に周知するとともに、日常的に保護者との信頼関係を深めるように努力している。</p> <p>▲ 校内服務倫理委員会では、効果が上がるよう、さらに地域や保護者の積極的な参加を進めていきたい。また、人材バンクの活用と、校内服務倫理委員会を企画する担当者が、教頭と協力して負担がかからないように仕事を分担することが大切である。</p>					